令和6年12月定例会 一般質問 川田裕議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。)

『103万円の壁』等の香芝市の見解について

○川田 裕 皆さんおはようございます。無実のことで不信任を受けた川田でございます。

今回の一般質問でございますが、今回は5点に絞りまして、もう簡単にやっていきたいなと思っております。私は国民民主党ではないわけですが、103万円の壁等の香芝市の見解についてをお聞きをしたいと思っております。

今、世の中、いわゆる日本というのは失われた30年ということが大きなテーマになっております。やはり物価の上昇もなく、賃金の上げもなく、ただただ、物価の上昇はあるんですけどもね、他のもの、賃金も、若干最近上がってきましたということもありますが、いわゆる控除額ですね、これが全く変わらない。国民民主党さんの意見を借りますと、いわゆる憲法25条による生存権、やっぱり最低の生活を営む権利を有するということから、それに対して控除額、今の103万円というものが本来、本当にそれで最低の生活ができるのかというような意味を説明をされておられます。私もこの控除額の引き上げというのは本来、物価の上昇とかいろいろありますが、そういったものに連動してこれは変わっていくものであろうと。諸外国でも大体その制度を取ってますのでね。ただ、日本だけが30年もこういった控除額が変わっていないということは、やはり見直すべきであろうということで、今回選挙でこの話題が大きくなりましたけれども、我々も前からこのことは指摘をしていたところであります。

そこで、1問目として、まずいろんな要因、交付税の問題とかいろいろありますが、端的に香芝市としては、この103万円の控除額の撤廃ですね、引上げですね、これについてどのような見解をお持ちになっているか。また、市長会とかいろんな会に行ってそういった意見も出ると思っております。知事会でもそういったところで、この撤廃、引上げに関しては、これはもう賛成だろうと。ただ、国からのお金でやってくれ、いわゆる地方にマイナスにならないようにという意見が知事会のビデオを見てましたらほとんどの意見でございました。

そこで、三橋市長も今後そういった見解を示される場面があるかもしれませんので、見解をお伺いしたいと思います。

壇上からの質問を終わります。

○財務局長 失礼します。国における政治的な政策決定について、市としての賛否を申し上げることは差し控えさせていただきますが、税制改正の具体的な内容については、現時点で未定であるものの、財務局といたしましては、自治体に対して、先ほどおっしゃられたような国による確実な減収補填がなされて、また課税基準の見直しによる可処分所得の増加

によって経済全体が活性化し、様々な税基盤の拡大が見込まれるのであれば、特に本市にとってそういうネガティブな影響は少ないものと考えております。

ただ、いずれにいたしましても、国において、いわゆる103万円の壁についてだけではなく、地方に対する財源補填も含めて全体的な方針が示されなければ、ちょっと具体的な影響を検討することは困難であろうと考えております。

以上でございます。

○川田 裕 何言っておられたかあんまりよく分からないんですが、聞いてますのがね、これグラフも図1ということで載せてますが、いわゆるこれ30年ね、ほぼ物価の上昇がないまま今来ていると。先月出たCPIの指数は約2.3%、昨年の2.5と合わせて4.5%弱物価のほう上昇してきてるわけです、やっとな。やっぱりこの構造自体から、これが今もう完全に日本が経済成長しなかった原因なんですけれどもね。

まず、これ市長にお伺いしたいんですが、細かい理由は抜きにしまして、いわゆるこの控除額の引上げということに関して、仮に国が財源は全部担保すると仮定した場合、それほどのような、これは賛成なのか反対なのか、どのような見解をお持ちでしょうか。

○市長 地方に対する財源補填が確実になされるということであれば、基本的に賛成をさせていただきたいというふうに考えてございます。

○川田 裕 ありがとうございます。

反対される方はいらっしやらないと思うんですが、やはり今回も年末までに決めれば今度の確定申告からでもできるんですが、それがまた税調と話してとか、いろいろややこしい話になってますが、早急に、機会があれば香芝市もこれについては賛成なんだということの発信をお願いを申し上げたいと思います。

2番目、次、失われた30年の素因、ちょっと今かぶってますが、それについて、ここまで30年間上昇がなかった。これ例えば財政で考えた場合、アメリカだったら432%上がってるわけですね。これ1990年から見ましたら。ということは、財政も給料も全部大体これぐらい上がってるわけですよ。ということは、100億円の財政の規模でやってたと仮にしたら、今現在432億円ぐらいになってるといような、大体おおむねですけどね、というような見方であると。ところが、日本の場合は、135と書いてますが、これはバブルのちょっと下がったところから見たら、逆にバブルぐらいから見たら下がってるわけですよ。だから、ちょっとそこは注意、補正入れないといけないと思いますが、その点についての見解をお示ください。

○財務局長 国における政治的な政策決定についての考え方につきまして、特別市のほうからいろいろと申し上げることというのは差し控えさせていただきますが、やっぱり財政規模の拡大という点で申し上げますと、我が国においては、長らく様々な要因によりましてデフレの状態が続いております。やはり国の政策において財政赤字の削減が優先されて、財政に対して積極的な対応が取られてこなかったということも、インフレ率の上昇と財政規模の拡大につながらなかった要因の一つであるというふうに考えております。

以上です。

○川田 裕 インフレ率、図2でも載せてますが、そして図3ですね、これも実質と名目をグラフ、これ出しておきました。インフレ率の推移に対しては、これIMFの数値を取ってきたんですが、もう一見して見たら分かりますように、これアメリカと比較しとるわけですが、年々大体2%から3%ぐらい、アメリカはインフレ率あるんですね。リーマン・ショックのときはちょっとマイナスになってますが。だけど、これ複利の計算で考えた場合、結構2.5倍ぐらいまでなっているという計算になるんです。毎年毎年上がっていくわけですから。だから、それに対して日本の場合はマイナスも多いし、換算したらマイナスであるということになってますが、こういった要因というのは、じゃあ何で起こったかで見られてるわけですか。

○財務局長 若干、先ほどの答弁の繰り返しになる部分も多かろうとは思いますが、結局その原因というのは、人口減少であったり、政策的な部分であったり、結局物価の上昇につながらなかったというのは様々な要因があるかと思いますけれども、先ほど言いましたように、財政に対して消極的な対応が取られてきたということも要因の一つというふうに考えております。

以上です。

○川田 裕 ここであまり時間かけたくないんで、さっと思っていきますが、要するに投資とかわしていく場合がありますよね、投資していく場合。だけど、これから基調的インフレになってきたということから考えれば、今現在投資しないと、それがまたインフレ率が高くなってきた場合、やはりそこで投資ということ考えた場合、かなりマイナス要因に働くということがありますが、その点はいかがですか。

○財務局長 はい、議員お見込みのとおりと思います。

○川田 裕 他の統計との比較ということがありますが、ちょっと時間がないので、これまた改めてさせていただきたいと思います。

「五位堂小学校の建替えについて」

○川田 裕 次に、五位堂小学校の建て替えについてお聞きいたします。

まず1番として、コンクリート強度ということで上げてますが、通告書には詳しく書かせていただいております。これ昭和43年建築の五位堂小学校の教室と、それと44年建築の部分がありますが、これが校舎2とありますが、校舎2、55年たってるんですね。これ長寿命化計画の参考資料としてつけられてる最後のほうの資料ですね、この中には、校舎2が12.2ニュートンということで、ミリ平方メートルですね、となっておりますが、これ本来、12.2というたら、耐震補強したらいけない校舎でしょ。耐震されてるんですよ、あれ、耐震補強。その点からお聞かせください。

○教育部次長 平成27年に耐震工事を施工したものでございます、奈良県学校施設耐震化

ガイドラインにおいては、コンクリート強度が13.5ニュートンパー平方ミリメートルを下回る場合は、改築を視野に入れた総合的な検討が必要であるとされてございます。本来であれば改築することが望ましかったと思われませんが、当時の市長の財政方針もございまして、改築という選択がなかったものと考えてございます。

○川田 裕 もう一度お聞きしますが、13.5ニュートンパー平方ミリメートルですね、これ以下の場合は、これは文科省の資料でも、設計基準強度の4分の3以下の場合は、いわゆる耐震優先度調査の評価方法における優先度を1番にしなければならないと書いているんですよ。建築協会とか、そういった資料でも、そういった場合は、ほとんど小学校ですから、小学校の場合と普通のとはちょっと見方が変わりますが、小学校、子供が生活をする場でありますから、そういった場合では、もうこれは補強工事しない、そして改築すると、こういうふうに奈良県のガイドラインでも示されてますよね。その点について、ここが不思議で仕方ないんですけど、もう一度お聞きします。

○教育部次長 繰り返しの答弁になるんですが、奈良県の学校施設耐震化ガイドラインにおいては、13.5ニュートンパー平方ミリメートルを下回る場合は、改築を視野に入れた総合的な検討が必要であるとされております。当時の市長の財政方針もあり、改築という選択肢がされなかったものと考えてございます。

○川田 裕 次長にあまりここを詰めても仕方ないので、これ置いときますが、ただ、もう4分の3下がったら、設計基準の強度から4分の3下がれば、これはもう駄目なんですよ。駄目と一応されているんです。なぜかという、子供が生活する場だからですね。だから、それをご指摘しときます。

ほんで、これ約2年か3年ぐらい前へ遡りますが、このことについて、いわゆる12.2のこの数値はもう分かってたわけでしょ。あのときご指摘させていただいたのは、この長寿命化計画の優先順位があまりにもむちゃくちゃであると。それと、改築しなければいけないところを改築しないで放置しているし、長寿命化計画は安全性に関してはまだましじゃないですか。だけど、この安全性に関わる生命、身体の保護に関わることにしてなぜ放置してるんだと、このような議論をさせていただいた記憶があります。その中で、長寿命化計画があまりにもずさんなので、これは見直さなければならないということで、基本方針を出されてきたわけですね。たまたまそこに、将来の長寿命化計画は文科省に提出をして、そこに載っていない個別計画、載っていないものに関しては交付税対象にならないという条件がありますので、将来構想を載せるということだったんですね。ところが、本来の目的は、この五位堂小学校の改築が目的だったにもかかわらず、学校再編、統廃合という、誰もそんな審議なんかしてないのに、それにすり替えられてしまったわけですよ。これもまた2年ぐらい遅れてきてるわけです、この五位堂小学校の。これ先日も五位堂の皆さんとちょっとお話しする機会があって、説明に行ったんですけど、やっぱり皆これ怒ってるじゃないですか。何で放置されてるんだということなんですよ。

だから、今後の方針についてちょっとお聞きしますが、今の現状でこれを放置する

ことできないでしょ、はっきり言って。その場合、もう改築に入らなきゃいけないと思いますが、市教委の見解をお願いします。

○教育部次長 今後におきましては、改築を視野に入れて考えてまいりたいと考えてございます。

○川田 裕 いや、視野に入れて検討と言いますが、視野に入れるて、改築しかないんじゃないんですか。ほかの方法あるんですかね、安全性を中心とした場合、いかがですか。

○教育部次長 大規模、長寿命化等の改修工事ではなく、改築で考えてまいりたいと考えております。

○川田 裕 じゃあ、安全性ということ、これだけの長い間放置されてきたという事実から鑑みまして、それはもういつから取組をされて、何年かかかるとおっしゃるけど。それはめんどをちょっと聞かせてください。

○教育部次長 今、この場で何年度までにとお答えは差し控えさせていただきたいと思っております。最優先でさせていただきたいと思っております。

○川田 裕 じゃあ、今いろんな取組なされている中において、最優先でこれを手がけなければいけないと、こういう回答ですね。あくまでも子供たちが生活をする場ということですから、いわゆる13.5、4分の3ですね、設計基準強度から4分の3以下の数値を放置されてきたと、約10年ぐらい、それはやっぱり強く強く反省をいただきたい。

いろいろこの間もちょっといろんなほかのところで聞いてますと、今検討委員会やりますよね、学校の附属機関のね。そこでは、こんな専門家のこと分からないから、そこでこれが協議されるということは当然ないですよ。

○教育部次長 はい。現在開催されております香芝市望ましい学校環境検討委員会では、再編の基準をつくっていただいている状況でございます。それ以外の耐震の基準とかはつくってもらっているものではございません。

○川田 裕 分かりました。

これ長寿命化計画の見直しについて、もう大分たってるんですよ。すぐでもこれ変えてくださいよ。そうでしょう。望ましい学校というのは、基準決めたら、ほんならどれぐらい先に人口が減った予測で、どれぐらい先に学校の統廃合が必要なんかという話ですから、約30年ぐらい先でしょ、あれ。もうちょっと先かもしれないですよ。だから、それ今の話とすり替わってしまってるんですよ。もともと長寿命化計画を見直すのは、この五位堂小学校のところがメインだったと思いますよ。そこはもう一回原点に戻ってちょっとやっていただきたいと思いますが、部長いかがですか。

○教育部長 現在でございます長寿命化計画につきましても、これは5年をめぐりに定期的に見直すようになってございますので、速やかに見直しにさせていただきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○川田 裕 よろしく申し上げます。

それと、こういった検査をやっていった数値からして、あと供用年数って大体分かるじゃないですか。あと何年ぐらいその校舎使えるかとかということが分かってくるよ。それによって大規模、中規模の改修の基準というのが決まってくると思うんですけどもね、その考え方についてお聞かせをいただきたいと思います。

○教育部次長 一般的なことではございますけれども、大規模改修等を行う際には、改修後の供用期間も考慮いたします。残存する供用期間が極めて短い校舎である場合には、差し迫った改修の必要性がなければ、大規模改修をすることなく建て替えることを検討することが必要であると考えてございます。

○川田 裕 分かりました。もうその答弁で結構です。

3番、南海トラフ地震への対応ということで、これはもうかなり前から南海トラフ大地震については、内閣府でもかなり詳しい資料を出されてますが、ただこれ香芝市の今回の五位堂小学校の建て替えは、本来だったらもう終わってるはずなのに、まだやっていないということから鑑みて、地震に対しての感覚というのをどう捉えられているんですか。特に全般になったらちょっとややこしいので、教育施設に関してちょっとお答えをください。

○教育部次長 南海トラフ等の地震を想定した改築または長寿命化の優先順位について、現在の香芝市学校施設の長寿命化計画は反映されたものではございません。

今後は香芝市学校施設長寿命化計画を見直す際に、適切に改修工事の優先順位をつけたと考えてございます。

○川田 裕 大事なところなのでよろしく申し上げます。

三橋市長とも昔、奈良県の建物で耐震化のことは、共同して大分一生懸命勉強させていただいてやらせてもらいました。ただ、おかげさまで、あのときに取れた答弁で、今奈良県の高校はほとんどもう耐震化終わりましたね、建て替えも終わったと。ついでに引がかかってきたのが西生駒署のところで、あれもコンクリート強度が思い切り割れてて、あれの建て替えも先日完成したということですから、早く、国土強靱化ということで、地震が来ても対応できる、そして子供たちを守るような方針にすぐさま直していただきたいとお願いをしておきます。この件はこれで終わります。

「人口増加政策のEBPM等について」

○川田 裕 3番に、人口増加政策のEBPMについて。

これEBPMについて詳細に聞いていけば、かなりの時間要りますので、端的に何を聞きたいかということから申し上げていきたいと思います。

これいろんな施策、政策をやっていくのは、国にでも今当然の行為になってますが、EBPMということで、いろんな数値と分析も含めて、そういった積み重ねの中でやっていくという点が1点と、それと住民とやっぱり行政との情報の非対称性ということで、住民側はほとんど情報ないんですよ。行政はもうほとんどの情報を持っておられるということからし

ましたら、やはり見える化が必要であるということで、国でもEBPMなんかはこれ見える化に直結するんだということでやられています。だから、そこでちょっとそういった前提をもってお聞きさせていただきます。

まず、この人口政策のEBPM、これをきちっとEBPM組まれてやっていかれるということによろしいですね。

○企画部長 人口政策に係るEBPMについて、進め方といたしましては、人口動態調査などを基にしました自然増減や社会増減などの社会分析を基にしまして、本市の人口増加の特徴であります子育て世帯を中心とした転入超過の維持促進に向けて、第1次香芝市都市計画再編基本方針に基づく高度地区による建築物の最高限度でありましたり、市街化調整区域の見直しといった人口増加に向けた施策のほか、小・中学校新入生の制服無償化をはじめとした子育て施策や福祉、教育の充実などの施策を総合的に組み合わせることで、主に周辺地域からの流入による人口の増加を図ってまいりたいと考えております。

○川田 裕 それは分かるんですけどね。だから、EBPMを取り組まれていくということで、その中で、昨日の木下議員の説明もありましたけど、いわゆる景観の問題もかかってくるでしょうし、そして人口が減少していく中で、それで増やすということは厳しい面も多いと思うんですよ。ただ、私はこの人口増加政策については大賛成でありましてね。何もせずにじっとしてても、ただただ人口が減っていくだけということになりますから、これはもう大いに賛成をしているわけではありますが、だけどやっぱりその根拠づけと見える化、これを必ずやっていかなきゃいけないし、分析によって見えてくるものというのは多くありますから、その点についての見解をお聞かせください。

○企画部長 分析についての見解というところでございますが、国勢調査などの基幹統計データでございましたり、社会保障・人口問題研究所の人口推計などから分析の上、依然として本市が目指す目標を阻む要因があるのであれば、課題と現状との因果関係を検証いたしまして、さらに魅力ある施策を講じていくことにより、重層的に本市の人口施策を推進してまいりたいと考えております。

本市の魅力を高めて選んでいただくためには、都市計画の見直しだけではなく、あらゆる分野におけます様々な施策を実施していくことが必要であると考えておりますが、第1次香芝市都市計画再編基本方針に基づきまして、開発の需要の調査なども予定しております。具体的な分析につきましては、今後実施してまいりたいと考えております。

○川田 裕 開発関係の調査、これは重要だと思います。社人研ですね、社人研のちょっと部長知り合いでいらっしゃいまして、ここ香芝市の数値に関しましては、当然、以前開発が進んでたときの数字が補正として載っとるんですよ。だから、逆に今開発地が減ってきたら、その補正分の数値を補正しなけりゃいけないんです。今度、逆に修正しなけりゃいけないということがあります。今出ている数字は急激に伸びた頃の人口の数字を使われてますので、その点だけちょっと助言をいたしておきます。

次に、人口増加政策のランドデザイン及び実行計画ということでお聞きをします。

まず、総合計画とかありますけれども、人口増加政策というんだったら、やっぱりその政策についてのグランドデザインというのが必要になってくると思うんですね。実行計画も当然に必要なということでもあります。その点の見解をお願いします。

○企画部長 本市におけますまちづくりのグランドデザインにつきましては、あくまで本市の最上位計画でございます香芝市総合計画がそれに当たるものと考えております。この計画には、人口ビジョンにより本市が目指す人口目標を設定するとともに、子育て施策や高齢者施策などの方針を定めており、網羅的に政策を推進していくための基本的計画となっております。

○川田 裕 それは分かるんですけどね。だから、聞きたいのが、EBPMやっていかれるんでしょう。ということは、いろんな検証していくもの、分野分野でも違うこともいっぱいあるからと先ほどおっしゃっていたじゃないですか。いろんな政策を組み合わせるといことでね。それなりのそういった計画があるわけですから、だからその枝葉計画とちょっと呼んでいいんですかね。例えさせてもらったら、枝葉計画は今後、だから人口増加政策をつくっていく上において新たなそういった枝葉の計画もつくっていくというんですよ、当然に。

○企画部長 この総合計画は、まず基本構想として12年間、そしてその下に基本計画として、前期基本計画、中期基本計画、後期基本計画を4年ごとに定めております。現在策定中の香芝市総合計画中期基本計画におきまして、政策遂行によってその課題が解決されるまでの論理的な道筋を示しますロジックモデルを用いまして、政策から事務事業までの因果関係に基づき、構築されるかを明らかにする取組を進めているところでございます。このロジックモデルは、計画策定時における論理構築だけではなくて、行政評価時における検証にも用いることができますので、こういった内容についても市民の皆様にもお示しできるように考えているところでございます。

○川田 裕 ロジックモデルの今のご説明、内閣府のホームページで出てたのとほとんど同じことをおっしゃってるんですけどね。ロジックモデルをやるということは、やっぱり統計学も必要になってくるわけですよ。そんなもん、論理構築でロジックモデルできるわけがないんでね。だから、そこはやられるということで今おっしゃってましたんで、きっちりとその辺の分析も全部含めてやってください。

ちょっとかみ合っていないのが、僕聞いているのは、総合計画があつてその基本計画があると言つても、その枝葉の計画、いろいろつくらないといけないでしょう。何もなしにできるわけがないじゃないですか。やるからには成功をしていただかなければいけないということですね。何を求めるかといつたら、確率なんですよ。どれだけの確率で、これが執行した場合にその効果が出てくるのかということを全部確率論で最終的には計算してますので、それをやるためにロジックモデルを使われるわけでしょう。そういうことですよ。だから、枝葉の計画も出てくるんですねということが先ほどの質問の趣意なんです。そこをもう一度お願いします。

○企画部長 ご指摘のとおり、枝葉となってくる個別の計画についても、やはり総合計画の下、考えていく、実施していくものでございますので、そういったところの整合性を取って進めてまいりたいと考えております。

○川田 裕 もう時間ないので、もう一回だけ聞きます。

総合計画が基になる、それは当たり前のことでありまして、その趣旨に沿ってやっていくと、これも当然のことでありましてね。だから、僕が聞いているのは、そんな当たり前のごことはもう答弁しないでください。結構ですから。だから、いわゆる枝葉の計画もつくりたくないでしよと、それは当然に出てくるんですねということを聞いているんです。

○企画部長 はい、おっしゃるとおりでございます。

○川田 裕 はい、分かりました。

じゃあ、ぜひとも、これは三橋市長の公約でもありますので、必ず成功に導かなければいけないと思いますので、我々も協力できることは協力していきたいと思いますので、頑張っで一生懸命やっていただけるようお願いを申し上げます。

「複合施設等建設計画の進捗状況について」

○川田 裕 次、4番、複合施設等建設計画の進捗状況についての議題をいたします。

まず1番に、複合施設の建設の具体案の進捗状況ですね、これをお聞かせいただきたいと思ひます。もうかれこれ大分時間たってますから、我々が見てた、聞いてた頃とどれだけ進捗してるのかということをも先聞きたいのが目的でありますので、よろしくお願ひをいたします。

○総務部長 お答えいたします。

複合施設等の整備につきましては、令和5年度から香芝市公有財産活用検討委員会の下部組織である専門部会において検討を進めてまいりました。

複合施設の整備の方向性につきましては、旧香芝市モナミホールに代わる市民ホールを、それ以外の機能を含めた複合施設として建設の方向が示され、その後駐車場の規模や配置等についても検討を進めているところでございます。

また、令和6年11月には、市長を含む幹部職員を中心に、香川県丸亀市において整備された複合施設への視察も実施いたしました。

今後につきましては、令和7年度の重点事業として、文化施設及び公共施設の複合化事業を予定しておりまして、その中で複合対象施設、建設条件、整備機能、整備スケジュールなどの検討を進め、基本構想を策定したい、このように考えてございます。

○川田 裕 その基本構想というのは7年度につくられるという解釈でよろしいですか。

○総務部長 7年度中に基本構想という形のものをつくっていきたくと、こういうふうに思ひます。

○川田 裕 ふたかみ文化センターの指定管理者の契約期間も3年とされてますので、そ

の間にやられることだろうとは予想はしてたんですが、令和7年度に基本構想ができてくるということで理解をいたしました。

次に、お聞きします。

今、これちょっと言葉足らずであれだったけど、香芝市、今市民ホールで、あれ300名程度ですかね、ぐらいしか入れないということで、ここの近隣の町ね、僕も調べてみたんですが、300名程度のホールしかないという市町は、ほかにこの近隣ではあるんでしょうか。

○総務部長 近隣のほうで、大ホール、中ホールという形で持たれているところはあるかと思えますけれども、詳しいことは分かりませんが、香芝市ぐらいの人口規模の中で300人程度収容のホールのみというのは、私の知ってる限りでは近隣にはないのかなというふうに思います。

以上です。

○川田 裕 もう一つ気になることが、先日の広報かしばですね、これの9ページに、これ市長行政報告ですかね、でも説明されておられましたが、ここに交付税措置の対象として認められると何が違うかという、こういう題を置いて、モナミホールのこの計画が個別政策に載っていなかったと。そのために交付税を受ける場合の影響が出る可能性があるということを指摘されていると。このグラフからしたら、非常に見やすいグラフなんですけど、この点についてちょっと詳しくもう一度教えていただけますか。

○財務局長 失礼します。公共施設適正管理推進事業債の適債性に係る部分のお話なんですけど、こちら、先ほどおっしゃっていただいた市長の行政報告や令和6年11月に発行した広報かしばにおいてお示ししておりますように、市長指示の下、総務省や奈良県との協議を行っているところでございます。

具体的な協議内容について、現時点で公表することは差し控えさせていただいておりますが、本市としては、当時における香芝市個別施設計画の中に具体的な将来計画がなくても、それに代わる複合施設などの建設を検討していたことが分かる資料等を用いて説明することで、交付税措置の対象として認めていただくよう求めたところでございます。

今後は市民の皆様には、新たな複合施設の使用も具体的に定めながら、適債性の有無について最終的な判断が示された際には、結果を報告したいと考えておるところでございます。

以上でございます。

○川田 裕 だから、その交付税がつくつかつかないかということで、個別計画に載っていないので、多分そこを指摘されてると思うんですけどね。それを出せということだと思うんですよ。それを出したから認めてくれるかどうかはまだ分からないと、こういうところですよ。

ここ疑問があるのがね、ちょっと僕の説明が間違っていたらご指摘をいただきたいんですが、もともとモナミホールを解体するときに、建て替えしようかという話も当然話があったと思うんですよ。全くなかったわけじゃないと。ところが、最終的には撤去を行うということで、除却を行ったわけですが、その除却を行う際に、これ地方財政法の改正によって、

今現在除却債が発行できますよね。多分それでお金借りられてると思うんですね。ところが、これには将来の建物が建つ場合に限っては、その人たちの受益があるので、だから交付税対象にしましょうと。ただ撤去だけだったらその交付税対象にはならないし、これ除却費に関してですけどね、という解釈だと思うんですね。だけど、普通そこでそういった解釈が、これどこのホームページ見ても、国のホームページ、交付税のところを書いてるじゃないですか。だけど、なぜ、そのときのその発想が全く理解できないんですが、書いてるんだったら、普通そこに何か書いたりとか、将来構想を書いたりとか、普通にしておいたら、その除却費に関して交付税対象、受けれたんじゃないんですか。いかがですか。

○**財務局長** 失礼します。どういう流れの中で最終的に政策的な決定が判断されたというのは、私もちょっと関知しない部分ではあるんですけども、やはりそのときに具体的な将来ですね、複合化施設等を含めて、はっきりとこの道であるということを示せてなかったという部分はあるのかなというふうには考えております。

以上です。

○**川田 裕** ここちょっと重要なことなんで押さえておきたいんですが、なぜ、普通そんなもん決めますよね、絶対にそういう条件。地財法の考え方、概念ですよ、それ普通、分かってたらそれは決めると思うんですよ。全くもう要らないということだったら、それはもう潰すだけなんで、それでいいんでしょうけども、それ疑問になって仕方ないんですよ。

市長はこの辺についてどんな見解を持っておられますか。

○**市長** もちろん私が就任する前のことですが、庁内で整理をした結果のことを申し上げますと、平成28年11月に策定した香芝市公共施設等総合管理計画におきまして、施設類型方針及び基本方針に基づく数値目標の施設面積削減等の主な例に記載するなど、モナミホールを複合化、多機能化及び広域連携の対象施設として位置づけてございます。文化施設に係る個別施設計画におきましては、これは令和2年3月に策定したものでございますが、モナミホールについては除却などの方向性が未定であり、また複合施設の具体的かつ詳細な案などの検討もなされていなかったため、計画への記載を留保したと聞いてございます。その後、モナミホールは老朽化によりまして、軒下の複数箇所が崩壊しているなどの危険性が高まり、地域住民に与える影響を考え、前市長の判断で、できるだけ早い時期に除却することが決定されたと。公共施設適正管理推進事業債の活用の観点からいえば、前述のとおり令和2年3月に策定した個別施設計画には記載を保留したが、複合施設等の計画時に改めて個別施設計画へ記載することとして、モナミホールの除却時には後継計画の策定に至らなかったというのが実情だというふうに聞いてございますが、通常であれば、個別施設計画にはもちろんしっかりと記載をしていくべきものであったというふうに考えてございます。

○**川田 裕** そうですよ。だから、これ、ちょっと僕もこの市議会へ戻ってきて思うんですが、やっぱり重要事項の審議とかされてなかったと思うんですよ。僕はほかの組合議会でも言って、財政の負担割合とか地財法の9条関係ですよ。これずっと今議論、そればかり

やってるんですけども。だけど、かなりの利益が変わってくるし、その考え方があるのとな
いのだったらね。だけど、これ我々議会もそれをやっていくのが仕事だと思ってますんで、
ただお花畑みたいな、あれやってくれ、これやってくれというようなことばかりやるのが議
員の仕事ではないと僕は思ってますんでね。その辺をやっぱり行政としても、今後三橋市長
にお願いをしておきたいんですが、そういった、将来どのような影響が出るのかという、当
然に法律の概念というものがあつた上でやっていくわけですから、そこのチェックは厳し
くやっていただきたいなとお願いを申し上げておきます。それはいいと。

じゃあ、続きになりますが、これの最後の4番の3番ですね、交付税措置の獲得の見通し
というのは大体どんなもんなんでしょうか。

○財務局長 失礼します。現時点ではもう未定でございます。今後も交付税措置の対象とし
て認めていただけるよう求めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○川田 裕 国とか相談行かれたんですか。

○財務局長 はい、行かせていただいております。

○川田 裕 その中身は言えないと先ほどおっしゃっていたということですね。分かりま
した。もう何としてもこれは獲得いただきますようご尽力いただけますよう、お願いを申し
上げさせていただきます。

「市民プールのウォータースライダー設置の検討状況について」

○川田 裕 それと、最後ですね、市民プールのウォータースライダー設置の検討状況につ
いてということで、前回の議会でも、なぜウォータースライダーは消えたのかという題で質
問をさせていただきました。そのとき、るる説明を受けたわけではありますが、それから何か
月たってますので、その検討状況ですね、ちょっとそこを、ほんで調査、進捗の状況ですね、
これをお答えいただきたいと思います。

○都市創造部長 令和6年9月香芝市議会定例会において市長の答弁にもあつたように、
ウォータースライダーの設置について検討を重ねてまいりました。その結果、のり面に設置
する方法、プール開業後に敷地を拡大して増設する方法、プールの敷地の中で設置する方
法がございます。しかし、1つ目ののり面に設置する方法については、のり面が不安定なこと
から、のり面補強を行っております支柱等の構造物でさらなる荷重をかけることは適当で
ないと判断しております。2つ目のプール開業後に敷地を拡大して増設する方法につ
いては、増設自体は可能であると考えられますが、周囲はのり面で囲まれており、増設に必要な
敷地が限られているため、複雑なスライダーを設置することが難しいことや、開業後の施工
となるため、室内プールの営業中に工事を行う必要があるなどの課題がございます。3つ目
のプールの敷地の中で設置する方法については、複雑な構造のウォータースライダーを設
置することはできませんが、のり面自体には支柱を設置せずに、のり面上の空間をうまく活

用しながら、比較的シンプルなものであれば、現在のプールの配置等を変更することにより設置することができると考えており、現地調査も踏まえて、議員の皆様の賛同が得られる見通しであれば、この方法による設置を検討しているところでございます。

以上でございます。

○川田 裕 ちょっと長い答弁で、何言うてるか分からないんですが、簡単に言えば、今のり面使わずに、今やってる設計変更によってウォータースライダーはつけれると、一言で言えばこういうことですか。

○都市創造部長 はい。議員おっしゃるとおりでございます。

○川田 裕 ちょっと端的に分かりやすく言っていただけるようお願いをしておきます。

そしたら、できるという回答が今あったわけですが、その設置の時期と規模、これはどんなもんなんですか。

○都市創造部長 プールの敷地の中で設置する方法については、現在建築途中での設計変更を行い、現在の工事施工に追加変更工事を行うことにより、令和8年2月には設置できると想定しております。

規模につきましては、高さが4メートル未満で長さが40メートルで、1レーンのウォータースライダーを想定しております。

以上でございます。

○川田 裕 高さ4メートルやから、ここの天井ぐらいですか。もうちょっと低い。あのはりぐらいですか。

子供たちが、ウォータースライダーあったら、本来だったらもっとすごいやつを造ったほうが香芝市アピールには非常にいいのかなと思うんですが、けど設置しているのとしていないのであれば全然やっぱり違うと思います。やっぱり来場者もそれで変わってくるとは思いますし、最近、近隣の市町見ましたら、プールはあったとしても、大きなプールはありませんし、遊べるプールというものも今ほとんどなくなってきているというのが現状ですから、その辺は、じゃあ何年と言うてました。8年3月と言うてました。8年2月までに設置をしていただけるという回答で受け取ってよろしいんですね。

○都市創造部長 8年2月末。

それと、すいません、補正予算がありますので、それが通りましたらそういった状況になると思いますんで、最終日にちょっと補正予算出させていただきますんで、その部分でオーケーをもらえればすぐに設計変更に進ませさせていただいて、変更の工事契約もした中でいけば、8年2月末に完成できる想定をさせていただきます。

以上です。

○市長 先ほど、都市創造部長が答弁をいたしました令和8年2月までに設置できると申し上げましたのは、仮に、現在我々のほうで進めておりますウォータースライダーの設置に係る関係の補正予算の準備が、今補正予算の提出を進めておりますが、その提出が仮に今議

会の最終日までにお出しをすることができ、かつご議決をいただきました場合には、令和8年2月までには設置できるものと想定しているという趣旨でございます。

以上でございます。

○川田 裕 よく分かりました。今回議案をね、補正予算出していただくことを心待ちに待っております。よろしくお願いします。

最後ですね、これ検討に要する時間の妥当性ということでお聞きしてるんですが、これについての見解もお願いします。

○都市創造部長 検討に当たっては、施工責任者及び工事監理責任者とも現場状況を確認し、設置可能な方法を模索してまいりました。検討に要した時間については妥当であるというふうに考えております。

以上でございます。

○川田 裕 ちょっと思ったのがね、前からも思ってたのが、もうちょっと早くできたんじゃないですか。ということは、今補正予算のお話も出てましたが、今回最初の議案の補正予算としてこれを組み込めたんじゃないかと、こう思うわけですよ。何か障害があって、それなりの正当な理由があって遅れてるということであれば分かりますが、今回議会あるのは日程大体決まっていたわけでありますから、それを最終目標としてやればできてたんじゃないかなと思います。その点いかがですか。

○都市創造部長 のり面へ設置する等、いろいろな方法3案を考えてまいりました。その中でどれがいいかというのも含めて考えさせていただいた中で、今ご説明させていただいたプールの中でという設置に至りましたが、それについても、現況のプールの位置の変更等もありましたので、そういった部分も含めて考えた中でこれほどの時間がかかったということで、ちょっと議会の当初には間に合わなかったというふうに考えております。

以上でございます。

○川田 裕 ちょっと苦しい答弁のように聞こえたわけですが、なんしか前回の短期間の中で知恵絞っていただいたことに関しましては御礼を申し上げます。

あと、補正予算、これは反対される方いるんかどうか、ちょっとこれはコメントできないんですけど、そこはちょっとお願いをしたいなと思います。

最後、総括として、まだ10分ぐらい余ってますのであれなんですけど、まず振り返ってみたら、103万円の壁については引上げ、地方公共団体のマイナスがなければ賛成であるということ。そして第2、五位堂小学校の建て替えについて、これについては、優先順位1位で建て替えを行うと、改築を行うということ。そして3番、人口増加政策のEBPM等もしっかりとやっていかれると、ロジックモデルを使ってやっていかれるということ。4番、複合施設の建設計画等の進捗状況について、これは令和7年度に基本構想ですか、それをまとめられると。第5、市民プールのウォータースライダーの設置は、この議会の末に補正予算が出てくるということで、それで副市長、よろしいですね。間違いありませんね。

○副市長 補正予算については、まだ出てくるというところの答弁は差し控えていた

だきますけれども、議員おっしゃった部分の残りの部分につきましては、そのように理解してございます。

以上でございます。

○川田 裕 分かりました。今日はすんなりいきましたので、もうこれで質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。